

## 意思決定班

意思決定班では、意思決定過程の特徴を、人間を含む動物に関する行動分析学の視点と行動意思決定論の視点を統合しながら把握することを目標にしており、社会的状況における意思決定の微視的過程を種々の基礎心理実験と調査を通じて解析を行っている。意思決定班では、竹村和久（早稲田大学）を代表として、坂上貴之（慶應義塾大学）、藤井聡（京都大学）を研究分担者、西條辰義（大阪大学）、高橋英彦（京都大学）、南本敬史（放射線医学総合研究所）を連携研究者としている。意思決定班では、研究分担者、連携研究者のほかにも、羽鳥剛史（愛媛大）、林幹也（明星大）、高橋尚也（立正大）、井出野尚（早稲田大）、大久保重孝（早稲田大）、玉利祐樹（早稲田大）、丹野隆行（テキサス大学）、Marcus Selart（ノルウェー経営大学院）、Henry Montgomery（ストックホルム大学）、Yuri Gatanov（サンクトペテルブルグ大学）の協力のもと研究を行っている。

### これまでの研究知見の概略

我々は、意思決定のマイクロ分析を通じて、意思決定についての実験知見の収集、モデル作成、意思決定の予測を行っている。これまでの意思決定の研究の結果から、意思決定過程は、状況依存的で経路依存的であることがわかっている。この現象を説明するために、我々は、人間の注意の範囲が限定的で、注意に導かれて意思決定がなされることを仮定して、状況依存的焦点モデルという意思決定モデルを作成し、意思決定の説明や予測を試みている。このモデルでは、図1にあるように、状況要因によって、焦点化する注意量が増減し、それにしたがって、意思決定の属性への重みが増減して、そして、その変化に従って、意思決定がなされるので、意思決定が状況依存的になると考える。また、経路依存性は、このような注意の焦点化と、注意の範囲の制限のために、すべての選択肢の情報を検討しない決め方をすることによって説明される。

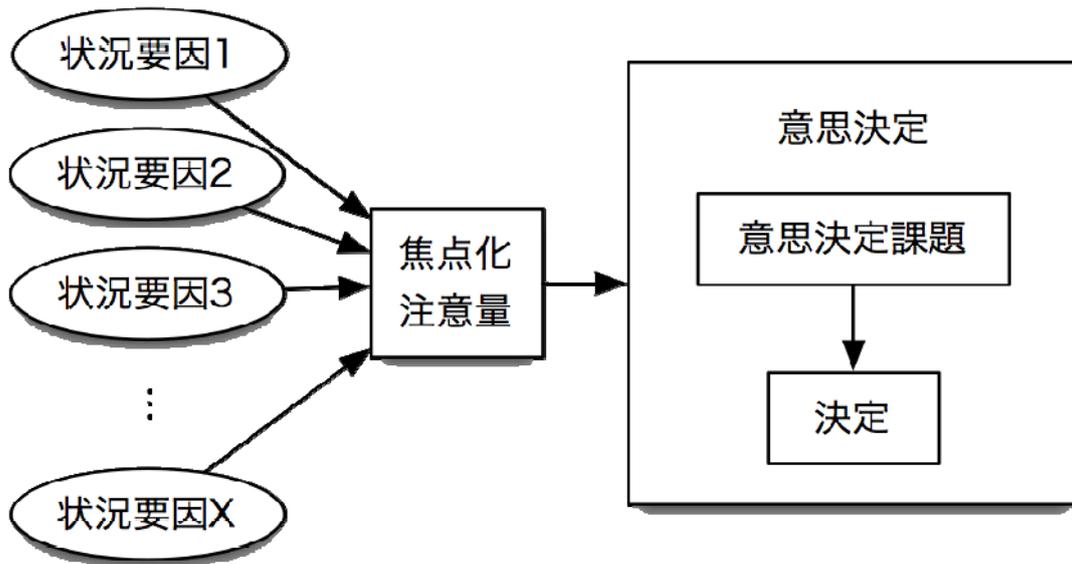


図1 状況依存的焦点モデルの概略図

このことは、いくつかの実験から明らかになっている。我々は、意思決定過程を検討する方法として眼球運動測定装置を用いた情報モニタリング法による検討を行っている。眼球測定装置には、図2のような接触型のものと、図3のような非接触型のものがあり、我々は、研究目的に応じて、使い分けている。接触型の場合、実験参加者が自由に移動できるため、例えば実際の購買意思決定中の視線を計測できるという利点があるが、一方で実験参加者の移動にともなって視野が移動するため、集計処理が困難であるという点がある。我々は、意思決定のそれぞれの段階で行われた注視の回数，注視の長さの平均，注視の対象となった選択肢の数，最終的に選ばれた選択肢に対する注視の割合などを求めて、意思決定の過程を分析したところ、人々は、例えば、図4に示したように、すべての情報を均等にみて意思決定をするのではなく、かなり偏った仕方意思決定をしていることがわかっている。このようなことから、人々の意思決定過程が、状況依存的で経路依存的になってしまうことが推察される。



図2 接触型の眼球運動測定装置  
(Tobii 社製 Tobii グラスアイトラッカー)



図3 非接触型の眼球運動測定装置

(SR Research 社製 Eyelink1000 Remote)

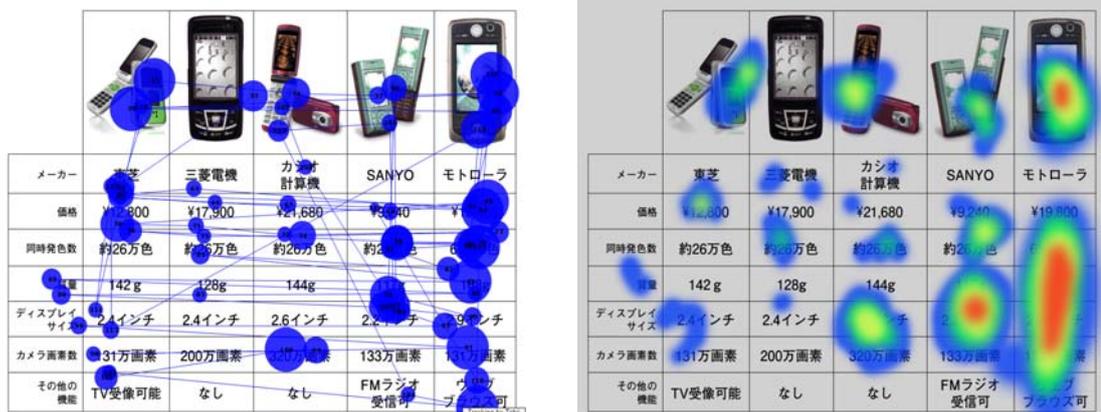


図4 眼球運動測定装置で測定された携帯電話のスペック表に対する視線データの可視化例 (大久保・竹村, 2011)

意思決定についての状況依存的焦点モデルの考えでは、意思決定は、注意や注目によって、変化することになる。この考え方は、我々の心理実験である程度、確認されている。例えば、リスク下の意思決定において、確率の情報を注目させるような実験操作を行うと、確率属性への重みが増して、よりリスクの低い安全な選択肢を選択するというリスク回避的な意思決定が促進され、金銭や生存者などの結果への情報を注目させるような実験操作を行うと、結果の属性への重みが増して、よりリスクの高い選択肢を採択するというリスク志向的な意思決定が促進されることがわかった。この実験操作によって、カーネマンとトゥベルスキーのプロスペクト理論で仮定されているリスク態度とは逆のリスク態度を形成することもある程度できるようになった。また、囚人のジレンマ課題のようなゲーム事

態においても、相手の利得に注目させる実験操作を行うと、協力的な意思決定が促進されることがわかった。このように、ある程度は、特定の属性に注目させることによって、意思決定を変化させることができることがわかってきた。

我々は、さらに、意思決定における注意の生起メカニズムに興味を持ち、社会的事象や意思決定事象への注目は、その事象の時系列変化あるいは空間的变化に依存し、また、その注目度は、事象の客観的指標だけではなく、その時系列での変化速度、変化加速度などにも影響を受けるという仮説を考え、いろいろな事象について検討しました。

一例として、図5に、日本での失業率の変化とグーグルの検索数との関係をグラフにしたが、ロジスティック回帰分析を行ったところ、失業への社会的注目は、実際の失業率が高まると高まるが、それだけではなく失業率の変化加速度が高くなるとより高まることがわかった。このような傾向は、インフルエンザ、株価、社会的リスクへの注目においても確認されており、また、実験室での眼球運動測定装置を用いた知覚判断課題においても、刺激の変化加速度の大きい刺激に人々は注目しやすいことがわかってる。一例として、図6に、株価の変動の実験刺激を示したが、この実験の結果、変化加速度の大きい株の銘柄に注目が高いことがわかった。

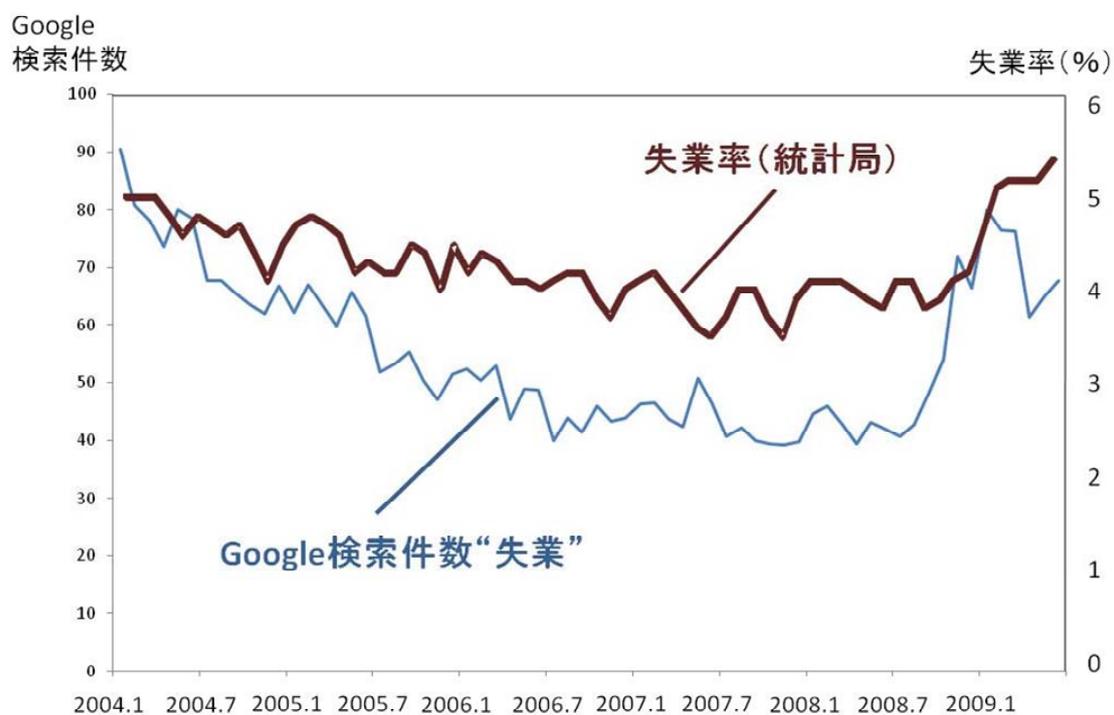


図5 失業率の変化と失業への社会的な注目の変化

## パラメータの推計

“失業”検索件数

$$U(t) = \alpha x(t) + \beta v(t) + \gamma a(t)$$

失業率(月別)      失業率  
変化速度      失業率  
変化加速度

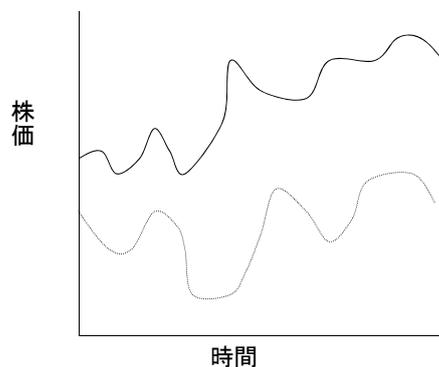
(t: 2004年1月-2008年12月, 月単位)

パラメータ	標準化係数	t値
$\alpha$	.868	11.27**
$\beta$	.113	1.13
$\gamma$	.324	3.19*

R<sup>2</sup> = .68  
\*p < .01, \*\*p < .001

図6 失業への社会的注目のロジスティック回帰分析の結果

## 時間経過とともに株価が変動 →どちらを買うか決定



86

図7 株価が変動する中での注目と意思決定

我々は、注目が意思決定を導くことがあることを、いくつかの実験から見出してきた。

このような知見が得られた後に、我々とは独立に、下條（カリフォルニア工科大）らによって、注目が選好を導くことを示唆するゲーズ・カスケード仮説が提唱されている。これは、能動的な注視が選好を形成するという仮説で、顔の選好実験などで実験的支持を得ている。この仮説は、状況依存的焦点モデルの仮定とも整合的である。

しかし、このような注目の効果はある程度あると考えられるものの、注目だけが意思決定を導くわけではないことが考えられる。我々は、注目だけではなく、選択をするという行為そのものが、選好や次の意思決定に影響を及ぼすのではないかという作業仮説を作っていくつかの実験的検討をしている。

我々は、まず、選択行為を実験的に制御するために、図8のようなチョコレートの画像に▲（または▼）が呈示されたら、できるだけ早く‘スペース・キー’を押すことをもつめる課題を作成して、チョコレートの種類によって選択回数を制御した。そして、選択回数が多いチョコレートを実際に人々が選ぶかを検討した。この検討のために、実験終了後に、2つのチョコレート（図9）を実験参加者に提示して、どちらかのチョコレートを持って帰ってもらうかを実験の従属変数とした。また、眼球運動測定装置で眼球運動も測定した。

## Go-Nogoタスク



図8 選好形成の実験課題



図9 実験で用いた2つのチョコレート

この実験の結果、やや仮説を支持する傾向は認められましたが、統計的には有意な結果が得られず、次に行ったミネラルウォーターの選択実験（図10）でも統計的な有意な結果は得られなかった。そこで、刺激を統制するという原点に立ち返って無意味図形で実験を行ったところ、統計的に有意な結果が得られて、選択行為自体が選好に影響を与えるという仮説が支持され。これらの一連の実験研究は、まだ、十分な追試を経たものではないので、十分な結論をつけることはできないが、注目だけが選好を導くものではなく、選択行為自体が選好を形成している可能性を示唆している。



図10 ミネラルウォーターの選択実験風景

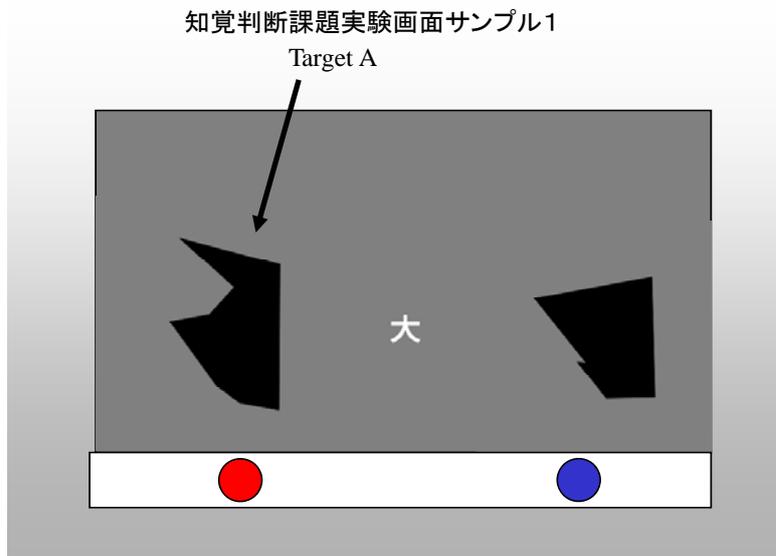


図 1 1 無意味図形を用いた選択課題

このように、人々の意思決定過程は、状況依存的で経路依存적であり、このことが、人々の実際の意思決定を、所謂合理的な意思決定とは乖離したものとしていることが示された。また、状況依存性や経路依存性は、状況に応じて属性への注意や注目が異なることとする状況依存적焦点モデルにより説明された。さらに、注意や注目度は、実際の客観的指標だけでなく、事象の速度や加速度にも影響を受けることが示された。このことは、企業や公共組織の行うコミュニケーション活動において、情報提示における加速度などを制御することによって、社会的注目度に影響を与えることができることを示唆している。また、注意や注目度だけが、選好や意思決定に影響を与えるのではなく、選択という行為自体が影響を与えることも示唆された。伝統的な心理学においては、選択は、選好から導かれるという暗黙的の仮定があったが、この結果は、選好自体がそれ以前の選択行為によって形成されることを示唆している。社会における伝統や習慣というものが、選好を形成している可能性が実験的に例証されたとも言える。

このように、ここで報告した我々の実験結果は、選好や意思決定を外的に制御することによって影響を与えることができることを示唆している。しかし、このことは、我々の選好や意思決定において全く自由がないことを意味しているわけではない。

我々が行ったラットの自由選択の実験では、同じ報酬が与えられても、強制的に選択させられるよりも、自由に選択できる状況のほうを強く選好することが見出されている。ラットのような動物ですら自由な選択を好むことがわかった。人は、ラットと同様に、自由な選択を選好しながら、一方で、これまでの選択行為に影響を受けたり、刺激の変化などに選択が影響を受けるといふ、相矛盾する様相を持っている。

我々は、このような意思決定過程の不可思議な様相をさらに解明していきたいと思っている。そのために、意思決定過程の過程追跡技法の開発、特に眼球運動測定装置による視線解析法の開発を行ったり、それに基づく意思決定実験を行い、さらには、神経科学研究を行っている高橋英彦氏をはじめとする連携研究者を中心にして、意思決定に関する脳機能画像の共同研究も現在行っている。このような知見を総合して、最終的には、政策形成や社会的問題解決に役立つような知見を提案したいと考えている。

### 研究活動の経緯

平成 19 年度（領域発足時）は、（1）意思決定場面での意思決定問題認識の言語プロトコール解析、（2）眼球運動測定装置を用いた意思決定過程の研究、（3）決定フレームと個人の意思決定行動の予測実験を中心に行い、ワークショップを 1 回開催した。これらの研究では、我々が研究をこれまで進めてきた状況依存焦点モデルを種々の意思決定過程で検討して、プロスペクト理論とは、異なる意思決定の予測ができ、その予測がある程度妥当していることを示した。

平成 20 年度は、イギリスからの海外研究者を招いたワークショップなどを 2 回開催して、この知識をもとに、研究テーマの中心を、意思決定過程の最も中心となる「選好形成」の問題に焦点を当て、眼球運動測定装置を用いて、選好がどのように形成されるかを検討しだした。この実験的検討では、動物における強化スケジュールでの選好形成や人間の選好形成過程を分析した。これまで言われてきた、単純接触効果やゲーズカスケード効果だけではなく、選択行為そのものが選好形成を担っているという仮説の検討を行い、その実験パラダイムを作成し、実験を行った。これは、我々は、この現象を「選択反応効果」と呼んだが、この効果は、「好きだから選ぶのではなく」、「選んでいるから好き」ということを示唆している。

平成 21 年度は、ロシアとアメリカからの海外研究者を招いたワークショップを 2 回開催して、国内外との研究交流を深め、意思決定過程の共同研究を開始した。また、研究代表者の竹村がロシアとスウェーデンを訪問して、情報モニタリング法を用いた意思決定実験や意思決定の潜在的認知の実験を行い、パースペクティブ理論からの予測を行って、その予測の実験的な支持を部分的に得た。また、相互作用下での意思決定過程と眼球運動を分析する実験設備を作り、実験を開始した。さらに、選好形成過程の選択反応効果を純粋に単純接触効果やゲーズカスケード効果から除去する実験パラダイムを作り実験を行い、その効果の傍証を得た。

平成 22 年度は、ワークショップを 3 回開催した。平成 23 年度の連携研究者の南本敬史放射線医学総合研究所主任研究員の講演も行ってもらい、共同研究の打ち合わせも行なっ

た。ラットやハトでの自由選択場面と強制選択場面での選好形成過程の比較実験を開始し、ヒトだけでなく、ラットやハトでも強制選択で同じ報酬を手に入れるよりも自由選択での報酬獲得を強力に好むことを明らかにした。また、選好形成の選択反応効果をさらに検討するために、これまでの飲料、菓子などの選択だけでなく、条件を統制した、無意味図形での選択実験を行い、選択反応効果が存在することを実験的に示した。また、より実際の場面での選択反応効果があるかを検討するために、交通選択や自転車の購買の社会調査を行い、この効果を支持する結果を得た。

平成 23 年度は、5 月の 2 日間にわたって、意思決定における眼球運動解析のワークショップを行い、今後の研究計画を議論した。このワークショップには、竹村和久、藤井聡、坂上貴之だけでなく、南本敬史連携研究員も加わり、意思決定の内発メカニズム等についての今後の研究計画を議論した。これまでの無意味図形を用いた選好形成過程の実験の結果は、選択反応効果が、ゲーズカスケード効果や単純接触効果とは独立の効果であることを示唆していた。また、9 月には、日本心理学会において、本年度 2 回目のワークショップを開催して、坂上貴之の司会のもと、竹澤正哲（上智大学）、井垣竹晴（東京女学館大学）、藤井聡、竹村和久が意思決定のマイクロ分析についての研究発表を行い、討論を行った。また、11 月には 3 回目のワークショップを開催して、竹村和久が意思決定班の研究目的とこれまでの選好形成実験研究の知見について、井出野尚（早稲田大学）が選好形成実験の方法論と最近の知見について、大久保重孝（早稲田大学）が情報モニタリング法による多属性意思決定研究について、坂上貴之が刺激と反応の潜在的関係性について、高橋英彦（京都大学）が損失忌避の分子イメージング、辛島彰洋（東北大学）が意思決定に関わる扁桃体の神経機構について、藤井聡が選好形成についての考察を行い、全体討論を行った。また、12 月には、早稲田大学でのウィンタースクール、および実験社会科学コンファレンスに参加した。

### **研究領域の研究を推進する上での問題点と対応策**

研究分担者の藤井聡教授が 2009 年度より京都大学大学院工学研究科に異動したので、会議をあらかじめ定めて面会する必要がでてきた。ただし、東京では月 2 回程度、京都や東京を含めた全体の会議を月 1 回程度行っている。

意思決定過程のマイクロ分析のために、脳機能画像計測も行うことになっているが、このために、京都大学大学院医学研究科の高橋英彦准教授（放射線医学総合研究所および玉川大学研究員）を連携研究員に加え、意思決定過程に対応する脳機能画像の計測を共同で行える体制を作っている。また、動物の意思決定過程も検討するために、サルの脳神経科学研究を行っている放射線医学総合研究所の南本敬史主任研究員も連携研究員に加えている。さらに、これまで総括班との連携が充分でなく、実験経済学との連携も充分でなかったため、総括班の代表研究者の大阪大学社会経済研究所の西條辰義教授も連携研究員に加

えた。また、ヒトと動物の行動実験や意思決定の実験を実施する上で、実験制御用、眼球運動解析用の計算機プログラムの開発が必要であり、それに伴うソフトウェアの購入をする。また、脳機能画像研究を含めた意思決定のマイクロ過程分析を効果的に行うために、これらの実験の実施をできる国内外の研究者との連携と技術交流を行うことも不可欠である。現在、ストックホルム大学心理学部ヘンリー・モントゴメリー教授、ノルウェイ経営大学院マーカス・セラート教授、サンクトペテルブルグ大学心理学部ユーリ・ガタノフ教授、ワーニンゲン大学経済学部グリット・アントニデス教授、と共同研究の打ち合わせを行っている。

研究の大きな目標を選好の形成過程に焦点を移してきたが、この選好の形成、形成過程を、個人状況、相互作用状況で検討しだしている。眼球運動測定装置を用いた相互作用実験と意思決定過程と対応した脳機能画像の研究もより活発に行う予定である。また、研究領域をさらに発展させるために、社会心理学者、行動分析学者、工学者、統計学者、脳神経科学者とのこれまでの協力関係をより強化し、さらに、社会学者、経済学者、哲学者などとの研究交流を盛んにすることによって、意思決定のマイクロ過程の更なる知見の展開を目指す。この目的を達成するために、年に数回のワークショップを開催するとともに、他班との研究・教育連携をさらに推し進める予定である。

## .研究成果公表の状況

### 【論文】

2011 年度

深田順子，鎌倉やよい，百瀬由美子，布谷麻耶，藤野あゆみ，横矢ゆかり，坂上貴之：  
PRECEDE－PROCEED モデルを用いた地域高齢者における口腔保健行動に関連する  
評価尺度の開発．日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌. 15, 199-208, 2011 (査読  
有)．

Suzuki, H. and Fujii, S.: Persuasive communication to promote local shopping and  
social interaction, In. Kiyoshi Kobayasi, Hans Westlund and Hayeong Jeong (eds.)  
Social Capital and Development Trends in Rural Areas, pp. 275-286, 2011. (査読有)

Bamberg, S., Fujii, S., Friman, M., and Gärling, T. Behaviour theory and soft transport  
policy measures, Transport Policy, 18, 228-235, 2011 (査読有)

Ettema D., Gärling, T., Eriksson, L. Friman, M., Olsson, L.E., and Fujii, S. Satisfaction  
with travel and subjective well-being: Development and test of a measurement tool,  
Transportation Research Part F, 14, 167-175, 2011 (査読有)

藤井聡・長谷川大貴・中野剛志・羽鳥剛史，「物語」に関わる人文社会科学の系譜とその公  
共政策的意義，土木学会論文集 F5, 67(1), 32-45, 2011 (査読有)

藤井聡，「政治決断」への支援を志向したリスクコミュニケーションの実践・研究を，災害  
情報，9, 2-3, 2011 (査読無)

羽鳥剛史・竹村和久・藤井聡・井出野尚，カテゴリー判断における焦点化仮説の検討—心の

箱モデルによる説明一, 心理学研究, 82, 2, pp.132-140, 2011 (査読有)

大久保重孝・竹村和久 (印刷中). 眼球運動測定と消費者行動分析. 繊維製品消費科学.

佐藤慎祐・菊池輝・谷口綾子・林真一郎・西真佐人・小山内信智・伊藤英之・矢守克也・藤井聡,  
災害情報のメタ・メッセージによる副作用に関する研究, 災害情報, 9, 172-178, 2011 (査  
読有)

玉利祐樹・竹村和久, 言語プロトコルの潜在意味解析モデルによる消費者の選好分析, 心理  
学研究, 印刷中 (査読有)

玉利祐樹・竹村和久 (印刷中). 描画の潜在意味解析モデルによる消費者の選好分析 日本感  
性工学会論文誌(査読有).

竹村和久, 消費者の意思決定過程の研究, 繊維製品消費科学, 印刷中 (査読無)

竹村和久, 多属性意思決定の心理モデルと「よい意思決定」, オペレーションズ・リサーチ,  
56(10), 583-590, 2011 (査読有)

## 2010 年度

Ettema D., Gärling, T., Eriksson, L. Friman, M., Olsson., L.E. and Fujii, S. (2011) Satisfaction with  
travel and subjective well-being: Development and test of a measurement tool, *Transportation  
Research Part F*, **14**, pp. 167-175. 査読有

Bamberg, S. Fujii, S. Friman, M. and Gärling, T. (2011) Behaviour theory and soft transport policy  
measures, *Transport Policy*, **18**, pp. 228-235. <http://hdl.handle.net/2433/131953> 査読  
有

丹野貴行・\*坂上貴之(2011). 行動分析学における微視 - 巨視論争の整理—強化の原理、分析  
レベル、行動主義への分類— 行動分析学研究第 25 号第 2 巻(印刷中) 査読有

Eriksson, L., Friman, M., Ettema, D., Fujii, S. and Gärling, T. (2010) Experimental simulation of car  
users' switching to public transport, *Transportation Letters*, **2** (3), pp. 145-155. 査読有

Fujii, S. (2010) Can state regulation of car use activate a moral obligation to use sustainable modes  
of transport?, *International Journal of Sustainable Transportation*, **4** (5), pp. 313-320. 査読有

Fujii, S. (2010) Editorial: Introduction to the special issue on behavior modification for sustainable  
transportation, *International Journal of Sustainable Transportation*, **4** (5), pp. 249-252. 査読  
有

Jou R.C., Hensher, D.A, Wu; P.H. Fujii, S. (2010) Road Pricing Acceptance: Analysis of Survey  
Results for Kyoto and Taichung, *International Journal of Sustainable Transportation*, **4**, pp.  
172-187. 査読有

Hachiga, Y. & \*Sakagami, T.(2010). A runs-test algorithm: Contingent reinforcement  
and response run structures. *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*,  
93(1), 61-80. 査読有

羽鳥剛史、中野剛志、\*藤井聡：ナショナルリズムと市民社会の調和的關係についての実証研  
究、人間環境学研究、8(2), pp. 163-168, 2010. 査読有

伊地知恭右、羽鳥剛史、\*藤井聡：内村鑑三「代表的日本人」通読による大衆性低減の持続  
的効果に関する実験研究、人間環境学研究、8(2), pp. 169-180, 2010. 査読有

天野 真衣, 谷口 綾子, \*藤井 聡：社会実験を通じた自発的街路景観変容に関する研究～  
自由が丘しらかば通りを事例として～、景観・デザイン研究論文集, 9, pp. 73-82, 2010.  
査読有

藤井聡: 交通政策における死者の民主主義: 「死者」を巡る政治学と民俗学, *交通科学*, 41 (1), pp.  
32-38, 2010. 査読有

- 門間俊彦, 中村卓雄, 小池淳司, \*藤井聡: 地方の社会資本整備についての分配的公正心理に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.1, pp.71-80, 2010 査読有
- 鈴木春菜, 中井周作, \*藤井聡: 買い物行動における「楽しさ」に影響を及ぼす要因に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.2, pp.425-430, 2010 査読有
- 菊池輝, 明壁佳久, 中井周作, \*藤井聡, 北村隆一: Nested Logit Model のパラメータ推定の安定性に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.3, pp.501-506, 2010 査読有
- 萩原剛, 中村俊之, 矢部努, 牧村和彦, 池田大一郎, \*藤井聡: モビリティ・マネジメントによる「エコ通勤」の効果分析: 平成 20 年度国土交通省の取り組み, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.3, pp.625-632, 2010 査読有
- 三木谷智, 羽鳥剛史, \*藤井聡, 福田大輔: 放置駐輪削減のための説得的コミュニケーション施策の集計的効果の検証, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.4, pp.757-766, 2010 査読有
- 藤井 聡, 唐木 清志, 工藤 文三, 池田 豊人, 岡村 美好, 緒方 英樹, 高橋 勝美, 谷口 綾子, 日比野 直彦, 堀畑 仁宏, 原文 宏, 松村 暢彦: 「土木」と「社会科教育」の連携の意義と可能性, 土木学会教育論文集, 2, pp. 39-44, 2010. 査読有
- 羽鳥 剛史・\*藤井 聡・住永 哲史: “地域カリスマ”の活力に関する解釈学的研究: インタビューを通じた「観光カリスマ」の実践描写, 土木技術者実践論文集, 1, pp. 122-136, 2010. 査読有
- 高橋 勝美, 谷口 綾子, \*藤井 聡: 地域の公共交通の役割・大切さを学ぶモビリティ・マネジメント授業の開発と評価, 土木学会教育論文集, 2, pp. 28-38, 2010. 査読有
- 伊地知 恭右, 羽鳥 剛史, \*藤井 聡: 内村鑑三『代表的日本人』の通読による大衆性低減効果に関する実験報告, 土木学会論文集D, 66 (1), pp.40-45, 2010. 査読有
- Tanno, T., Silberberg, A., & \*Sakagami, T (2010). Concurrent VR VI schedules: Primacy of molar control of preference and molecular control of response rates. *Learning & Behavior*, 38 (4), 382-393 査読有
- 大久保重孝・井出野尚・\*竹村和久 (2010). 乳幼児の笑顔画像呈示による感情誘導手法の提案 -商品選択実験を用いた適用例-. 日本感性工学会研究論文集, 9(3), 485-491. 査読有
- 大久保重孝・井出野尚・\*竹村和久. (2010) 多属性意思決定過程における背景情報の効果について-情報モニタリング法を用いて. 日本感性工学会論文誌, 9(4), 226-231. 査読有
- Takahashi, H., Matsui, H., Camerer, C., Takemura, K., et al. (2010) (in press). Dopamine D1 receptors and nonlinear probability weighting in risky choice. *Journal of Neuroscience*, 30, 16567 - 16572. 査読有
- 竹村和久・大久保重孝. (2010) 曖昧性と意思決定. 知能と情報, 22. 419-426. 査読無
- 若山大樹, 井出野尚, \*竹村和久 (2010) 社会的事象と知覚課題の曖昧な判断に関する心理学的研究 知能と情報, 22, 443-449. 査読有 58, 480-490. 査読有

## 2009 年度

- Ando, N., Iwamitsu, Y., Takemura, K., Saito, Y. Takada, F. Impressions regarding the concept of mutation among family members of patients receiving outpatient genetic services *Journal of Genetic Counseling* 18, 567-577, 2009 査読有
- 安藤記子, 岩満優美, 竹村和久, 齊藤有紀子, 高田史男 認定遺伝カウンセラーの現状と今後 -研究職の立場から- 日本遺伝カウンセリング学会誌 30:115-118, 2009 査読有
- 羽鳥剛史, 小松佳弘, \*藤井聡: 景観保全に及ぼす大衆性の破壊的影響に関する全国調査 - オルテガ「大衆の反逆」の景観問題への示唆 -, 土木計画学研究・論文集, 26 (2), pp. 377-382, 2009. 査読有

- 羽鳥剛史, 三木谷智, \*藤井聡: 心理的方略による放置駐輪削減施策の効果検証: 東急電鉄東横線都立大学駅における実施事例, 土木計画学研究・論文集, 26 (4), pp. 797-805, 2009. 査読有
- 羽鳥 剛史・黒岩 武志・\*藤井 聡・竹村 和久, 道徳性発達理論に基づく土木技術者倫理に関する実証的研究-倫理規定の解釈可能性が土木技術者の倫理性に及ぼす影響-, 土木学会論文集D, pp.262-279, 2009. 査読有
- Fujii S., Kitamura, R., Nagao, and Doi, M. (2009). An experimental analysis of intelligibility and efficiency of in-vehicle route guidance system displays, *Transportation*, 36, pp. 779-786. 査読有
- Fujii, S. (2009). Retrospectives and perspectives on travel behavioral modification research: A report of "behaviour modification" workshop. In Kitamura, R., Yoshii, T., and Yamamoto, T. (Eds.). *The Expanding Sphere of Travel Behaviour Research, Selected Papers from the 11th International Conference on Travel Behaviour Research*, Emerald, pp. 439-445. 査読有
- Fujii, S., Bamberg, S., Friman, M., and Gärling, T. (2009). Are effects of travel feedback programs correctly assessed?. *Transportmetrica*, 5(1), pp. 43-57. 査読有
- Gärling, T., and Fujii, S. (2009). Travel behavior modification: Theory, methods, and programs, In Kitamura, R., Yoshii, T., and Yamamoto, T. (Eds.). *The Expanding Sphere of Travel Behaviour Research, Selected Papers from the 11th International Conference on Travel Behaviour Research*, Emerald, pp. 97-128. 査読有
- 小松佳弘・羽鳥剛史・\*藤井聡: 大衆による風景破壊: オルテガ「大衆の反逆」の景観問題への示唆, 景観・デザイン研究論文集, No. 6, pp. 23-30, 2009. 査読有
- 佐藤菜生, 高崎いゆき, 吉川肇子, 村尾智, \*竹村和久 鉱物資源乱掘に従事する労働者のリスク認知—描画法を用いた事例研究—リスク研究学会誌 19, 33-41, 2009. 査読有
- Takahashi, H., Ideno, T., Okubo, S., Matsui, H., Takemura, K., Matsuura, M., Kato, M., Okubo, Y. Impact of changing the Japanese term for "schizophrenia" for reasons of stereotypical beliefs of schizophrenia in Japanese youth. *Schizophrenia Research* July 2009 (Vol. 112, Issue 1), 149-152. 査読有
- 竹村和久. (2009). 意思決定と神経経済学. 臨床精神医学, 38(1), 35-42. 査読無
- 竹村和久. (2009). 消費者の意思決定過程. 基礎心理学研究, 24, 147-155. 査読無
- 谷口綾子・\*藤井聡: 社会的ジレンマでの協力的行動を記述する「階層的規範活性化モデル」の提案～理論的検討と交通・環境・まちづくり問題への適用～, 土木学会論文集D, 65 (4), pp. 432-440, 2009. 査読有

## 2008 年度

- Ando N, Saito Y, Takemura K, Takada F, \*Iwamitsu Y., "Knowledge and Impressions Regarding the Concept of Mutation among Japanese University Students," *Clinical Genetics* 74, 75-81, 2008.
- Choocharukul, K. Van, H. T. and Fujii, S. "Psychological Effects of Travel Behavior on Preference of Residential Location Choice," *Transportation Research A*, 42 (1), pp. 116-124, 2008. 査読有
- Gärling, T., Jakobsson, C. Loukopoulos, P., and \*Fujii, S. "Acceptance of Road Pricing," In Erik Verhoef, Michiel Bliemer, Linda Steg, and Bert Van Wee (Eds.)

- Pricing in Road Transport: A Multi-Disciplinary Perspective*, UK: Edward Elgar Publishing, pp. 193-208, 2008. 査読有
- 岩満優美, 安田裕恵, 神谷美智子, 和田芽衣, 中島香澄, 安藤記子, 岡崎賀美, 竹村和久, 日本語版「Life Experiences Survey 作成と妥当性・信頼性の検討」, 『ストレス科学』, 23(3), 239-249, 2008. 査読有
- Loukopoulos, P. Gärling, T., Jakobsson, C. and Fujii, S. "A Cost-Minimisation Principle of Adaptation of Private Car Use in Response to Road Pricing Schemes in Road Pricing, the Economy, and the Environment," Springer, pp. 331-350, 2008.
- Selart, M. Nordstrom, T., Kuvaas, B., Takemura, K. Effects of Reward on Self-regulation, Intrinsic Motivation and Creativity Scandinavian. Journal of Educational Research, 52, 439-458, 2008. 査読有
- Silberberg, A., \*Roma, P. G., Huntsberry, M. E., Warren-Boulton, F. R., Sakagami, T., Ruggiero, A. M., and Suomi, S. J., "On Lossaversion in Capuchin Monkeys," *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 89, 145-155, 2008. 査読有
- 竹村和久・井出野尚・大久保重孝・松井博史. (2008). 神経経済学と前頭葉. 分子精神医学, 8(2), 35-40. 査読無
- Takemura, K., Takasaki, I., Sato, N., Kinoshita, M., Iwamitsu, Y., Ideno, T., and Yoshida, K. (2008). Image Analysis of Projective Drawings for Mental Patients and Students. Proceeding of the Second International Workshop on Kansei, pp. 94-97. 査読有
- Takemura, K. and Selart, M. (2007). Decision Making with Information Search Constraints: A Process Tracing Study. *Behaviormetrika*, 34(2), 111-130. 査読有
- Takemura, K. (2007). Ambiguous Comparative Judgment: Fuzzy Set Model and Data Analysis, *Japanese Psychological Research*, 49(2), 148-156. 査読有
- Tanno, T., and \*Sakagami, T., "On the Primacy of Molecular Processes in Determining Response Rates under Variable-Ratio and Variable-Interval Schedules," *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 89, 5-14, 2008. 査読有

#### 2007 年度

- Fujii, S. and Garling. T., "Role and Acquisition of Car-Use Habit," In Tommy Garling and Linda Steg (Eds.), *Threat from Car Traffic to the Quality of Urban Life: Problems, causes, and solutions*, Elsevier, 235- 250, 2007. 査読有
- Fujii, S., "Communication with Non-Drivers for Promoting Long-Term Pro-Environmental Travel Behaviour," *Transportation Research D*, 12, 99-102, 2007. 査読有
- 藤井 聡, 公共事業をめぐる世論における“沈黙”の分析, 心理学研究, 78 (2), pp. 157-164, 2007. 査読有
- 藤井 聡, 日本における「モビリティ・マネジメント」の展開について, *IATSS Review*, 31(4), pp278-285, 2007. 査読有

- 藤井 聡 , 総合的交通政策としてのモビリティ・マネジメント：ソフト施策とハード施策の融合による持続的展開, 運輸政策研究, 10 (1), pp. 2-10, 2007. 査読有
- 藤井 聡・染谷祐輔, 交通行動と居住地選択行動の相互依存関係に関する行動的分析, 土木計画学研究・論文集, 24(3), pp. 481-488, 2007. 査読有
- 井出野尚・\*竹村和久, 潜在的連想テストを用いたリスク・マップの作成 感性工学会論文集, 7(1), 101-110, 2007 査読有
- Ishii, T. &\* Sakagami, T. , " Reinforcement Omission in Concurrent Fixed-Interval and Random-Interval Schedules, " *Behavioural Processes*, Vol. 74, 334-341, 2007. 査読有
- 諸上詩帆・岩間徳兼・大久保重孝・\*竹村和久, 時間的制約が消費者の購買意思決定課題に及ぼす影響 - 眼球運動測定装置を用いて - 感性工学会研究論文集 7(2), 275-282, 2007. 査読有
- 大久保重孝・井出野尚・\*竹村和久 (2007). 消費者心理学の最前線 (第2回) 消費者行動研究における潜在的認知測定 -潜在的連想テスト(Implicit Association Test: IAT)の適用可能性について-. 繊維製品消費科学, 48(9), pp. 578-584. 査読無
- 竹村和久・大久保重孝・諸上詩帆 (2007). 消費者心理学の最前線 (第1回) -過程追跡技法による消費者の意志決定過程の分析-. 繊維製品消費科学, 48(8), pp. 506-513. 査読無
- Takemura, K. , Ambiguous Comparative Judgment: Fuzzy Set Model and Data Analysis, *Japanese Psychological Research*, 49(2), 148-156, 2007. 査読有
- Takemura, K. & Selart, M. , Decision Making with Information Search Constraints: A Process Tracing Study *Behaviormetrika*, 34(2), 111-130, 2007. 査読有

## 【学会発表】

### 学会発表

#### 2011 年度

- 井出野尚・林幹也・坂上貴之・藤井聡・大久保重孝・玉利祐樹・丹野貴行・羽鳥剛史・竹村和久 . 知覚判断課題を用いた選好形成過程の検討. 日本心理学会第75回大会発表論文集, 91, 2011..
- 今関仁智・井出野尚・中山真里子・林幹也・竹村和久 無意味図形の評価における漢字の瞬間呈示の効果—心理実験による検討— 日本感性工学会「あいまいと感性・感性脳機能」ジョイント・ワークショップ講演論文集, 2011.
- 金井慎太郎・井出野尚・中山真里子・林幹也・竹村和久 連想が評価に及ぼす影響の検討—

心理実験を用いて- 日本感性工学会「あいまいと感性・感性脳機能」ジョイント・ワークショップ講演論文集, 2011.

長島愛・井垣竹晴・坂上貴之 同一価値の選択肢間の選択場面において訓練時の各刺激への滞在時間が将来の選択に及ぼす影響 日本心理学会 第75回大会発表, 2011

大久保重孝・井出野尚・竹村和久(2011). ワークショップ話題提供：消費者行動研究における IAT の適用-購買意図から商品選択そして購買行動へ- (WS073 IAT(Implicit Association Test)の課題と将来性(5)-行動指標と IAT 測度との関係性-) . 日本心理学会 第75回大会発表論文集, WS(37).

大久保重孝・井出野尚・玉利祐樹・羽鳥剛史・竹村和久 (2011). 先行する判断課題が意思決定に及ぼす影響. 日本心理学会第75回大会発表論文集, 88.

大森貴秀・原田隆史・坂上貴之・白鳥和人 多段階抽選ゲームでの反応時間に対する結果パターンの効果2 日本基礎心理学会第30回大会発表, 2011 藤井聡 意思決定における物語の役割 日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 2011.

王雨晗・井出野尚・竹村和久 国産食品と外国産食品に関するイメージ測定-潜在的連想テストを用いて-日本感性工学会「あいまいと感性・感性脳機能」ジョイント・ワークショップ講演論文集, 2011.

Sakagami, T. & Yamada, A. Eye-Tracking Behavior and Centrality Preference in Multiple-Choice Test: A Preliminary Study. The 37th Annual convention of Association for Behavior Analysis International, 2011

秦単飛・玉利祐樹・竹村和久 曖昧性を考慮した印象評定の研究 -面接場面におけるファジィ評定法を用いたファジィ回帰分析による検討- 日本感性工学会「あいまいと感性・感性脳機能」ジョイント・ワークショップ講演論文集, 2011.

高階勇人・阪上公一・馬場崇徳・大久保重孝・井出野尚・竹村和久 (2011). 多属性意思決定における、望ましい選択肢を選ぶ場合と望ましくない選択肢を選ぶ場合の情報探索過程の差異について. 第42回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集, 143-146.

高階勇人・阪上公一・馬場崇徳・大久保重孝・井出野尚・竹村和久 (2011). 情報モニタリング法による多属性意思決定過程の分析-望ましい選択肢を選ぶ場合と望ましくない選択肢を選ぶ場合の情報探索過程の差異の検討. 第5回行動経済学会大会

竹村和久・大久保重孝・井出野尚・玉利祐樹・阿部周造 (2011). 消費者の意思決定における本質的属性と副次的属性. 第42回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集, 147-150.

竹村和久 動的フレームとしての物語と意思決定 日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 2011.

竹村和久 自分の幸福の選択 日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 2011.

竹村和久 個人的意思決定の不可能性定理 -Arrow の一般可能性定理を基にして 日本理論

心理学会第 57 回大会発表論文要旨集, 2011.

竹内潤子・今関仁智・竹村和久. 「よい社会」のイメージ研究—ブータンでの予備調査をもとに—日本感性工学会「あいまいと感性・感性脳機能」ジョイント・ワークショップ講演論文集, 2011.

## 2010 年度

北川 夏樹, 鈴木 春菜, 中井 周作, 藤井 聡: 日常的な移動が主観的幸福感に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

鈴木 春菜, 北川 夏樹, 藤井 聡: 移動時幸福感の規定因に関する研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

藤井 聡, 中野 剛志: マクロ経済動向への影響を加味した公共事業関係費の水準と調達方法の調整についての基礎的考察, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

北川 夏樹, 鈴木 春菜, 羽鳥 剛史, 藤井 聡: 共同体からの疎外が主観的幸福感に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

澤崎 貴則, 藤井 聡, 羽鳥 剛史, 長谷川 大貴: 「川越まちづくり」の物語描写研究—伝建地区指定に至るまちづくり史—, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

笈田 翔平, 菊池 輝, (財) 計量計画研究所交通まちづくり研究室, 藤井 聡: PT 調査における交通・土地利用・公共交通 LOS の簡易型統合モデルの構築とその活用実践, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

菊池 輝, 山本 貴之, 藤井 聡: 経路選択時における公益情報提供に対する焦点化についての実験研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

羽鳥 剛史, 中野 剛志, 藤井 聡: ナショナルリズムと市民社会の調和的關係についての実証的研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

梶原 大督, 菊池 輝, 藤井 聡: 「利己主義人間観」が政府に対する否定的態度に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

佐藤 慎祐, 菊池 輝, 谷口 綾子, 林 真一郎, 西 真佐人, 小山内 信智, 伊藤 英之, 矢守 克也, 藤井 聡: 災害情報のメタ・メッセージによる副作用に関する研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM, vol.42, 2010.

菊池輝, 山本貴之, 竹村和久, 藤井聡: 交通情報に対する焦点化についての実験研究, 日本行動計量学会第 38 回大会抄録集, pp.138-141, 2010.

谷口綾子, 藤井聡, 竹村和久: バス利便性への焦点化による居住地選択誘導のためのコミュニケーション, 日本行動計量学会第 38 回大会抄録集, pp.142-145, 2010.

羽鳥剛史, 竹村和久, 藤井聡, 井出野尚: カテゴリー判断における焦点化効果—心の箱モデルによる説明—, 日本行動計量学会第 38 回大会抄録集, pp.146-147, 2010.

羽鳥剛史, 長谷川大貴, 澤崎貴則, 藤井聡: 質的インタビュー調査による行動計量データの補完について, 日本行動計量学会第 38 回大会抄録集, pp.280-281, 2010.

藤井聡, 菊池輝, 梶原大督: 「利己主義人間観」の要因分析, 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, pp.94, 2010.

羽鳥剛史, 三木谷智, 福田大輔, 藤井聡: モノに関する所有経験の想起が愛着意識に及ぼす影響, 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, pp.983, 2010.

菊池輝, 山本貴之, 藤井聡: 自動車運転者への公益情報提供に対する焦点化に関する実験研究, 日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集, pp.122-pp.123, 2010.

羽鳥剛史, 竹村和久, 藤井聡: 社会的事象の変化検出に関する実験と計量分析, 日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集, pp.126-pp.127, 2010.

藤井聡, 梶原大督, 菊池輝: 利己主義人間観の心的影響, 日本社会心理学会第 51 回大会発

- 表論文集, pp.140-pp.141, 2010.
- 鈴木春菜, 北川夏樹, 藤井聡:「移動時幸福感」が生活全般の主観的幸福感に与える影響, 日本社会心理学会第51回大会発表論文集, pp.400-pp.401, 2010.
- 酒井 弘, 宮川 愛由, 藤井 聡: マスメディアを活用したモビリティ・マネジメントの手法及び効果に関する研究, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 宮川 愛由, 井尻 憲司, 大路 健志, 栗原 健二, 藤井 聡: 観光モビリティ・マネジメントについての技術開発:京都・奈良での取り組み事例, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 鈴木 春菜, 北川 夏樹, 矢野 晋哉, 藤井 聡: MMによる交通手段転換が「主観的幸福感」に与える影響分析, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 羽鳥 剛史, 三木谷 智, 福田 大輔, 藤井 聡: 自転車に対する愛着意識と放置駐輪行為に関する実証的検討, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 東 徹, 木村 裕, 田中 均, 藤井 聡: 「歩くまち・京都」憲章ならびに「歩くまち・京都」総合交通戦略策定の取組, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 岡田 直也, 菊池 輝, 奥嶋 政嗣, 藤井 聡: 高速道路料金施策評価のための生活行動シミュレーションモデルの構築—Activity Based Approachに基づく料金施策評価—, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 岡部 翔太, 谷口 綾子, 藤井 聡, 石田 東生: 社会的価値と高速道路料金大幅値引き下げ政策の賛否意識の関連分析, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 藤井 聡: 交通計画における「物語」の本質的意義, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 山内 麻希, 吉井 稔雄, 藤井 聡: サイクル長に着目した信号現示切り替わり時における車両挙動解析, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 河西 秀彦, 吉井 稔雄, 藤井 聡: 路肩復員に着目した二輪車のすり抜け挙動解析, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 遠藤 皓亮, 吉井 稔雄, 藤井 聡: ネットワーク形状と交通状況に適応したランプ流入制御手法, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 三木谷 智, 羽鳥 剛史, 藤井 聡, 福田 大輔: 心理的方略による放置駐輪削減施策の実証的研究: JR 東日本赤羽駅での取り組み, 土木計画学研究・講演集, CD-ROM,vol.41, 2010.
- 稲原 宏, 福本 大輔, 加藤 昌樹, 平見 憲司, 須永 大介, 高橋 勝美, 藤井 聡, 鈴木 成幸, 藤原 邦生, 田村 英樹, 岩辺 路由: 西遠都市圏総合都市交通体系調査における都市交通マスタープランへのモビリティ・マネジメントの位置づけについて, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.29, 2010.
- 東 徹, 田中 均, 高橋 成和, 宮川 愛由, 藤井 聡: 「歩くまち・京都」憲章ならびに「歩くまち・京都」総合交通戦略策定の取組, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.36, 2010.
- 対馬 正浩, 山口 雅巳, 細谷 州次郎, 椎貝 達也, 藤井 聡: 地域住民主体で運営するコミュニティバスの利用促進を目的とした、高齢者対象モビリティマネジメント, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.42, 2010.
- 大路 健志, 井尻 憲司, 栗原 健二, 藤井 聡: 観光地におけるモビリティ・マネジメントの取り組み, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.44, 2010.
- 萩原 剛, 矢部 努, 米田 卓郎, 中村 俊之, 牧村 和彦, 藤井 聡: モビリティ・マネジメントによる「エコ通勤」の全国展開に基づく知見と教訓—全国規模で実施したワンショット TFP の効果分析—, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.54, 2010.

- 佐藤 貴行, 堀 雅清, 藤井 聡, 神田 佑亮, 梅阪 浩, 若林 拓史, 藤島 寛: 京都府全域を対象とした免許更新時モビリティ・マネジメントの継続的な取組と効果, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.55, 2010.
- 矢野 晋哉, 大野 健志, 藤井 聡, 井尻 憲司, 東 徹: 京都市における大学と住民を対象とした公共交通・電動アシスト付きレンタサイクルの利用促進の取組, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.57, 2010.
- 鈴木 春菜, 矢野 晋哉, 北川 夏樹, 藤井 聡: MMによる交通手段転換が「主観的幸福感」に与える影響の分析, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.59, 2010.
- 山本 信弘, 野田 泰弘, 井上 学, 永池 孝二, 伊藤 真吾, 藤井 聡: 職場 Mm のツールを利用した居住者 MM の取組について～宇治職場モビリティ・マネジメントの継続的取組～, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.68, 2010.
- 仲尾 謙二, 高山 光正, 矢野 晋哉, 藤井 聡: 京都府におけるカーシェアリングの普及に関する報告, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.69, 2010.
- 肥田 肇, 大藤 武彦, 小澤 友記子, 藤井 聡: 「はじめよう!かしこよう eco なクルマ利用」WEB プログラムを活用した高速道路利用促進 ～「阪神高速 eco でイコ!」プロジェクト～, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.75, 2010.
- 三木谷 智, 藤井 聡, 羽鳥 剛史, 福田 大輔: 大規模鉄道駅周辺を対象としたコミュニケーションによる放置自転車削減の取り組み: 東京都赤羽駅における事例, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.85, 2010.
- 鈴木 春菜, 三浦 清洋, 藤井 聡, 糟谷 賢一, 谷口 綾子: 中心地の集合住宅居住者を対象としたまちなか来訪 TFP, 第五回日本モビリティ・マネジメント会議講演概要集, p.99, 2010.
- 藤井 聡, 菊池輝, 梶原大督: 「利己主義人間観」の要因分析, 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, p. 94, 2010.
- 羽鳥剛史, 三木谷智, 福田大輔, 藤井 聡: モノに関する所有経験の想起が愛着意識に及ぼす影響, 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, p. 983, 2010.
- 谷口 綾子, 近森教諭, 松岡校長, 菊池 輝, 佐藤 慎祐, 藤井 聡, 矢守 克也, 林 真一郎, 西 真佐人, 小山内 信智, 伊藤 英之: 土砂災害避難行動誘発のための授業実践 ～高知県興津小学校の取り組み～, 第二回土木と学校教育フォーラム, 2010.
- 岡本 英晃, 唐木 清志, 藤井 聡: モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) の普及, 第二回土木と学校教育フォーラム, 2010.
- 藤井 聡, 水山 光春: 京都市の環境副読本におけるモビリティ・マネジメント教材の紹介, 第二回土木と学校教育フォーラム, 2010.
- 井出野尚・大久保重孝・竹村和久 (2010). 潜在的連想テストを用いた連想構造の検討-繰り返し測定による IAT 効果の変化-. 日本心理学会第 74 回大会, p. 250. (2010 年 9 月@大阪大学)
- 長島愛・久保田寛子・石井拓・坂上貴之 (2010). 誤反応後の種類ごとに結果を変えることで見本合わせ課題での弁別成績は向上するか? 日本心理学会第 74 回大会 ポスター発表
- 大森中・川島義高・井出野尚・高橋英彦・舘野周・竹村和久・大久保善朗 医学生・研修医の精神疾患に対する態度 - 教育・BSL・研修前後の変化についての検討 - 第 106 回日本精神神経学会学術総会, p. 208, 2010 年 5 月 20-22 日

奈古利恵, 西堀瑛美, 森山まどか, 安藤玲奈, 大森中, 川島義高, 舘野周, 大久保善朗, 井出野尚, 高橋英彦, 竹村和久 IAT を用いた精神疾患に対する差別的態度の評価: 医学生を対象として, 第 78 回日本医科大学医学会総会, p. 233, 2010 年 9 月 4 日, 東京

Omori, A., Tateno, A., Ideno, T., Takahashi, T., Kawashima, Y., Takemura, K., Okubo, Y. Attitudes towards schizophrenia measured with the Implicit Association Test in Medical students and Clinical Residents in Japan. The 2nd Asian Congress on Schizophrenia Research p. 65, 2010 年 2 月 11-12 日, Korea, Seoul.

大久保重孝・井出野尚・竹村和久 (2010). 多属性意思決定における背景情報の効果の検討—情報モニタリング法を用いて—. 日本心理学会第 74 回大会, p. 253. (2010 年 9 月 @ 大阪大学)

大森貴秀・原田隆史・坂上貴之 (2010). 多段階抽選ゲームでの反応時間に対する結果パターンの効果. 日本基礎心理学会第 29 回大会 11 月 27 日・28 日 28 日午後発表 西宮市・関西学院大学

坂上貴之(2010). 倫理的随伴性をもたらすもの: ヒトを対象とした心理学実験の研究倫理. 学会企画シンポジウム「行動分析家が人を対象にした研究ならびに臨床的活動を実践する時に必要な倫理的配慮」日本行動分析学会第 28 回年次大会発表論文集, p. 24. 10 月 9 日 神戸親和女子大学

坂上貴之 (2010). 人を対象とした心理学実験における研究倫理. シンポジウム「看護研究における研究倫理の考え方」愛知県立大学 (看護学部) 9 月 9 日

丹野貴行・竹村和久・藤井聡・羽鳥剛司・井出野尚・大久保重孝・坂上貴之(2010). 選択の自由さが選好に及ぼす影響. 日本行動分析学会第 28 回年次大会発表論文集, p. 124. 10 月 10 日 神戸親和女子大学

丹野貴行・坂上貴之(2010). 行動分析学における微視 - 巨視論争の整理—強化の原理、分析レベル、行動主義への分類—行動分析学研究第 25 号第 2 巻, 109-126

八賀洋介・坂上貴之 (2010). "少数の法則" の補足説明の妥当性に関する実験的検討. 日本心理学会第 74 回年次大会 発表論文集 P. 629. 大阪大学 9 月 21 日

高橋尚也・竹村和久・井出野尚・大久保重孝・玉利祐樹 (2010). あいまい事態における形式性追求傾向が組織内での違反に対する意識と社会的判断に与える影響. 日本社会心理学会第 51 回大会論文集, 762-763.

高橋尚也・竹村和久・井出野尚・大久保重孝・玉利祐樹 (2010). あいまい事態における形式性追求傾向に関する予備的検討. 日本心理学会第 74 回大会, p. 108. (2010 年 9 月 @ 大阪大学)

高橋尚也・竹村和久・井出野尚・大久保重孝・玉利祐樹 (2010). あいまい事態における形式性追求傾向が組織内での違反に対する意識と社会的判断に与える影響. 日本社会心理学会第 51 回大会論文集, p. 762-763. (2010 年 9 月@広島大学)

Takemura, K., Takasaki, I., Matsumura, ., Iwamitsu, Y., Ideno, T., and Yoshida, K. (2010) ,New analysis method for projective drawings: Texture analysis, singular value decomposition, and Fourier analysis. Paper presented at the International Conference of Applied Psychology, Melbourne, Australia. 2010 年 7 月 14 日

竹村和久 松本丈広 若山大樹 (2011) 曖昧さの理由 日本知能情報ファジィ学会復興支援学術講演会, 2011 年 3 月 19 日 北海学園大学)

竹村和久・大久保重孝・玉利祐樹・井出野尚 (2010). 消費者の意思決定の追求傾向と満足傾向. 第 41 回消費者行動研究コンファレンス. (2010 年 11 月@関西学院大学)

竹村和久・藤井聡: 状況依存的焦点モデルの基礎, 日本行動計量学会第 38 回大会抄録集, pp.134-137, 2010.

玉利祐樹・竹村和久 (2010). 選好解析における言語プロトコルの分析 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, 1288.

2009 年度

板東香織・大久保重孝・井出野尚・坂上貴之・藤井聡・羽鳥剛史・丹野貴行・玉利祐樹・高橋尚也・竹村和久 (2009). アイカメラを用いた選好形成過程の検討 -ミネラルウォーターの選択実験を用いて-. 第 14 回曖昧な気持ちに挑むワークショップ Heart&Mind2009, pp. 25-26. (2009 年 11 月@関東学院大学関内メディアセンター)

板東香織・大久保重孝・井出野尚・坂上貴之・藤井聡・羽鳥剛史・丹野貴行・玉利祐樹・高橋尚也・竹村和久 (2009). 選択行動による選好形成過程の検討-アイカメラを用いて- 日本感性工学会第 11 回日本感性工学会大会予稿集 CD-ROM, p. 3G2-5\_J11-090705-3. pdf. (2009 年 9 月@芝浦工業大学豊洲キャンパス)

井出野尚・玉利祐樹・大久保重孝・高橋英彦・竹村和久 (2009). 暖まると優しくなるか? 日本感性工学会第 11 回日本感性工学会大会予稿集 CD-ROM, p. 3G2-6\_J11-090629-38. pdf. (2009 年 9 月@芝浦工業大学豊洲キャンパス)

大久保重孝・井出野尚・玉利祐樹・高橋英彦・竹村和久 (2009). 生理指標を用いた精神疾患にたいする偏見の研究(2)サーモグラフィーによるアプローチ 日本感性工学会第 11

回日本感性工学会大会予稿集 CD-ROM, p. 3G1-5\_J11-090629-39. pdf. (2009年9月@芝浦工業大学豊洲キャンパス)

松本丈広・渡辺成・竹村和久 曖昧な評価に基づいた比較判断と意思決定. 第11回日本感性工学会大会(東京) 2009.9.8-10 [第11回日本感性工学会大会発表論文集(2009), CD-ROM, 3F3-5. 2009.9]

竹村和久, 50周年記念シンポジウム「新たな社会心理学の展開と現状からの脱却: 行動意思論の視点から」, 招待講演, 日本社会心理学会第50回大会. 大阪大学, 2009年10月11日.

竹村和久・井出野尚・大久保重孝・小高文聰・高橋英彦 (2009). 消費者の選好判断過程に及ぼす背景効果-fMRIによる脳機能画像計測実験を用いて-. 行動経済学会第3回大会. (2009年12月@野依記念学術交流館(名古屋大学))

竹村和久・井出野尚・大久保重孝・小高文聰・高橋英彦 (2009). 消費者の選好に関する神経経済学的研究~認知反応と脳画像解析~. 第39回消費者行動研究コンファレンス. (2009年10,11月@広島経済大学)

玉利祐樹・大久保重孝・井出野尚・高橋英彦・竹村和久 (2009). 生理指標を用いた精神疾患に対する偏見の研究(1)-SCRによるアプローチ- 日本感性工学会第11回日本感性工学会大会予稿集 CD-ROM, 3G1-4\_J11-090629-37. pdf. (2009年9月@芝浦工業大学豊洲キャンパス)

渡辺成・羽島剛史・井出野尚・大久保重孝・竹村和久 (2009). 共同意思決定状況における対話と視線挙動の分析-2台のアイカメラを用いて- 日本感性工学会第11回日本感性工学会大会予稿集 CD-ROM. (2009年9月@芝浦工業大学豊洲キャンパス)

#### 2008年度

井出野尚・大久保重孝・諸上詩帆・竹村和久 (2008). 消費者行動への潜在的測定の展開 日本広告学会 2008年度第5回関東部会研究会. (2008年9月@成城大学)

#### 2007年度

大久保重孝・井出野尚・松井博史・竹村和久 (2007). 選択肢の優越性と意思決定 日本感性工学会第9回日本感性工学会大会予稿集 2007. (2007年8月@工学院大学)

諸上詩帆・大久保重孝・竹村和久・藤井聡 (2007). 気分が良い時の意思決定過程-アイカメラを用いて- 日本感性工学会第9回日本感性工学会大会予稿集 2007. (2007年8月@工学院大学)

Takemura, K., Tkasaki, I., Satoh, N., Kinoshita, M. Yoshida, K., Iwamitsu, Y. (2007) Statistical Image Analysis of Psychological Projective Drawings. Paper presented at

the International Meeting of the Psychometric Society (IMPS-200), Tokyo, Japan.  
2007年7月11日

Takemura, K., Ochiai, A., Takakai, Y., & Ono, K. (2007) Fuzzy least squares conjoint analysis and its application to Consumer decision research. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society (IMPS-2007), Tokyo, Japan. 2007年7月10日

## 【図書】

2011年度

守口剛・竹村和久(編著), 消費者行動論, 八千代出版, 印刷中(書籍)

坂上貴之. 危険の誘惑. 宮坂敬造・岡田光弘・坂上貴之・坂本光・巽孝之編  
リスクの誘惑 慶應義塾大学出版会 Pp.199-216. 2011.

丹野貴行・坂上貴之. 行動分析学に対する微視・巨視論争の含意—平岡(2011)  
へのリプライ— 行動分析学研究26, 71-76.2011.

坂上貴之 お金と心理学—経済心理学・行動経済学・実験経済学. 心理学ワー  
ルド: 50 号刊行記念出版 日本心理学会編 Pp.121-126. 2011.

坂上貴之 ある心理学方法論に見る陥穽と処方箋—人文・社会科学のアクチ  
ュアリティー 慶應義塾大学三田哲学会編 慶應義塾大学出版会 Pp. 33-59.  
2011.

坂上貴之 危険の誘惑. 宮坂敬造・岡田光弘・坂上貴之・坂本光・巽孝之編 リスクの誘惑 慶  
應義塾大学出版会. 199-216. 2011.

Takemura, K., Ambiguity and social judgment: Fuzzy set model and data analysis, in I.  
Simic(Ed.), Fuzzy Logic, In Tech: Open Access Publisher, in press

竹村和久, 消費者の意思決定におよぼす現象, 杉本徹雄(編), 新・消費者理解のための心理  
学, 福村出版, 印刷中(

2010年度

藤井 聡, 公共事業が日本を救う, 文春新書, 2010.

藤井 聡, 正々堂々と「公共事業の雇用創出効果」を論ぜよ～人のためにこそコンクリ  
ートを, 日刊建設工業新聞社, 2010.

河原純一郎・坂上貴之編著. 心理学の実験倫理—「被験者」実験の現状と展望. 勁草書房  
264pp 2010.

坂上貴之(編) 意思決定と経済の心理学 朝倉書店 2010.

竹村和久・北村英哉・住吉チカ(編) 感情と思考の科学事典, 2010.

2009年度

竹村和久, 行動意思決定論-経済行動の心理学, 日本評論社, 2009(日本社会心理学会

出版賞受賞)

2007 年度

坂上貴之, 心理学と経済学の交差点：需要関数・マッチング関数・割引関数, 子安増生・西村和雄編『経済心理学のすすめ』, 有斐閣, pp. 15-44. 2007 .

竹村和久, 意思決定過程の心理学 子安増生・西村和男 (編), 経済心理学のすすめ 有斐閣, 45-68, 2007.

竹村和久 ホームページ <http://www.waseda.jp/sem-takemura/>

坂上貴之 ホームページ <http://psy.flet.keio.ac.jp/~pigeon/>

藤井聡 ホームページ <http://trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp/tba/>

以 上